

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 3 部門第 3 区分
 【発行日】平成 24 年 2 月 2 日 (2012.2.2)

【公表番号】特表 2011-506721 (P2011-506721A)
 【公表日】平成 23 年 3 月 3 日 (2011.3.3)
 【年通号数】公開・登録公報 2011-009
 【出願番号】特願 2010-538596 (P2010-538596)
 【国際特許分類】

C 0 9 D 175/04 (2006.01)

C 0 8 G 18/48 (2006.01)

C 0 8 G 18/79 (2006.01)

【 F I 】

C 0 9 D 175/04

C 0 8 G 18/48 Z

C 0 8 G 18/79 A

【手続補正書】

【提出日】平成 23 年 12 月 8 日 (2011.12.8)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

複数の官能基 F G を有する少なくとも 1 個の架橋剤 (A) と、前記架橋剤 (A) の官能基 F G に対して反応性の基を少なくとも 2 つ有する少なくとも 1 個の結合剤 (B) とを含む被覆材料であって、

前記官能基 F G は、イソシアネート基 (- N C O) であり、

前記架橋剤は、

架橋剤中に含まれている官能基 F G のうちの 10 % 以下が結合している少なくとも 1 個のスペーサと、

前記スペーサの末端に配置された少なくとも 2 個の頭部基とから構成され、

前記スペーサを形成する原子および原子団のうちの少なくとも 80 % が、非環式構造体の構成要素であり、

前記スペーサは、単結合によって互いに連結され、それぞれ互いに独立して、 - C H₂ - 、 - C H R³ - 、 - C R³ R⁴ - 、 - C (= O) - 、 - O - 、 - N H - 、および - N R³ - からなる群から選択される、少なくとも 50 個の原子および原子団から構成され、

スペーサの 10 個以下の結合が、多重結合および / または環系の一部であり、

R³ および R⁴ は互いに独立して、C₁ ~ C₁₈ アルキル、C₆ ~ C₁₂ アリール、または C₅ ~ C₁₂ シクロアルキルであり、

前記頭部基は、

それぞれ少なくとも 2 個の官能基 F G を有し、

前記架橋剤 (A) 中の官能基 F G の密度は、少なくとも 2 mol / kg である、被覆材料。

【請求項 2】

前記スペーサが、少なくとも 50 個であり最大 2000 個の原子および原子団を含むことを特徴とする、請求項 1 に記載の被覆材料。

【請求項 3】

前記架橋剤（Ａ）中の頭部単位上の官能基ＦＧの数が２～１０個であることを特徴とする、請求項１又は２に記載の被覆材料。

【請求項４】

前記架橋剤（Ａ）中の官能基の密度が３～６ｍｏｌ／ｋｇであることを特徴とする、請求項１から３までのいずれか一項に記載の被覆材料。

【請求項５】

架橋剤（Ａ）１個当たりの頭部基の平均数が２～５個であることを特徴とする、請求項１から４までのいずれか一項に記載の被覆材料。

【請求項６】

前記スペーサが、分子量７００～４５００を有するポリＴＨＦから誘導されていることを特徴とする、請求項１から５までのいずれか一項に記載の被覆材料。

【請求項７】

前記頭部基が、イソシアヌレート基を含有するポリイソシアネートから誘導されていることを特徴とする、請求項１から６までのいずれか一項に記載の被覆材料。

【請求項８】

前記頭部基が、超分岐ポリイソシアネートから誘導されていることを特徴とする、請求項１から８までのいずれか一項に記載の被覆材料。

【請求項９】

前記ポリイソシアネートが、１，６－ヘキサメチレンジイソシアネートおよび／またはイソホロンジイソシアネートから形成されることを特徴とする、請求項７又は８に記載の被覆材料。

【請求項１０】

前記被覆材料から形成される被覆の硬度と可撓性および／または引っかかり抵抗性を向上させるための、請求項１から９までのいずれか一項に記載の架橋剤（Ａ）の前記被覆材料中での使用。

【請求項１１】

前記被覆の硬度と可撓性および／または引っかかり抵抗性を向上させる方法において、被覆を生じる前記被覆材料と、請求項１から９までのいずれか一項に記載の少なくとも１個の架橋剤（Ａ）とを混合することを特徴とする、前記方法。